ESCO活用で省エネ

推進協が宇都宮でセミ

【宇都宮】ESCO推進協議会（東京都千代田区、茅陽一会長、03・3234・2228）と日刊工業新聞社は17日、宇都宮市のホテル東日本宇都宮で「ESCO活用による省エネ経営セミナーin栃木」を開いた。省エネルギーに関して包括サービスを提供するESCO事業の普及が目的で、約100人が参加した。

東京大学大学院の松橋隆治教授（写真）が「栃木県の省エネルギーに向けた取り組み」を演題にスピーチした。また、日比谷総合設備、アズビル、東テクの3社がESCO事業の導入事例を紹介した。

松橋教授は①規制的手段を取りにくい②費用対効果の高い機器の特定は時間・費用負担が大きい―などを特徴に挙げ、「産業や運輸部門と比べ対策が遅れている」と指摘。省エネ改修にあたり初期投資費用を払わずに、省エネによる節約分で購入機器費用などの返済に対応する手法を紹介した。

続いて栃木県地球温暖化対策課の安藤高広課長が「栃木県の省エネルギーに向けた取り組み」を演題にスピーチした。また、日比谷総合設備、アズビル、東テクの3社がESCO事業の導入事例を紹介した。